

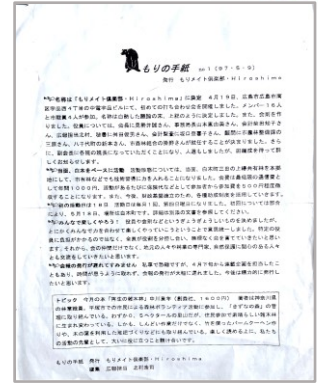
堺 次郎 6 班(育成講座 24 期)

毎月毎月、コツコツと積み重ねてついに 300 号ですか。発行に携わられてこられた方のご努力に頭の下がる思いです。また印刷日に間に合うよう前日の深夜まで、いや明け方まで編集作業に取り組んでおられる原田さんの姿が目に見えます。

ご苦労様でした。

私自身、京都の宇治市でフォレスタ-宇治という森林ボランティア団体で 5 年ほど会報の発行に携わっておりましたのですが、毎月 8 ページにも及ぶ会報を 300 回もよく続けられたものだと感嘆いたしております。

広島山林、里山の環境保全などの活動に資するため、「もりの手紙」がその啓発のための情報を切れ目なく発信をして行ければと思います。



創刊号 A4(1997-5-9)

2 班 松村允雄(育成講座 3 期)

ほぼ 25 年間、封筒の発送ラベルを作り続け、印刷用紙を調達し、毎月の発送作業に携わってきました。前任者の白石さん(現下関在住・元副会長)の仕事が忙しくなり、私が受け継いだ形となりました。わたしもまだ若かったのでしょうか。正直なところ、発送ラベルを中断しなかったことも幸いです。

様々な人が携わり、会報は皆さんの手元に届きます。会報が届いたら隅々まで目を通してください。情報を共有しましょう！投稿、歓迎です。今年米寿を迎える松村さん、第一線から手を引かれましたが、これからもどうかよろしく願います。

～「今月のひと枝」から 300 号によせて～

創刊 200 号(2014・2)の記事の中に「97 年 10 月から始まった【今月のひと枝】は、コウヤボウキが最初。創刊 100 号ではタカノツメで、200 号ではタチバナモドキが紹介されている。もりメイト倶楽部会員のスミさんがほぼ休む事無く投稿して下さっている。「もりの手紙」を支える底力と言えるのではないのでしょうか」と、嬉しい言葉が添えられていた。

植物の名前を覚えるには画を描くのがといいと教わり、月に一枚書き続け、気が付いたら編集をも引き受け今に至る。

“できる時にできる事を” 多少見栄を張りながら、もう少し描かせてもらおう。やはり、植物が大好きなのかもしれない。

10 代目広報担当：原田 澄(3 班)